

事業所名

放課後等デイサービス コモド琴似プラチカ

支援プログラム

作成日

2024 年

11 月

11 日

法人(事業所)理念	「“できる”を積み重ね、自信につなげる支援」 基礎学力の向上を目的とした個別の学習支援を行いながら、大人や社会との関わりや、同じ悩みを持った仲間たちとの交流を大切に「プラチカにしかない居心地の提供」をコンセプトにした支援を行う。							
支援方針	子どもたちの学習段階を見極め、適切な関わりを築くことによって、子ども自身が「できる！」という気持ちを感じられる支援を行う。そして、ただの「勉強を教わる場所」「勉強を教える大人」としての存在ではなく、プラチカに出会えて良かったと心から感じてもらえるような子どもたちにとっての「特別な場所」の提供を行う。							
営業時間	11 時	0 分	から	20 時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり
本人支援	各活動における支援内容を「別紙①～④」に記載							
家族支援	Dropboxによる「リアルタイムなやり取り」を通して家庭と密に連携し、支援につなげる。送迎時や電話による相談を日常的に行う。保護者会を開催し保護者との連携を深めつつ、保護者同士のつながりを強める。			移行支援		集団活動・学習指導においては、普通級・支援級の枠組みを超えてを行うことですべての児童に多様な経験をしてもらいながら、居場所として同年代の仲間づくりを促進していく。進路・進学においては、本人・保護者の意向を最大限に汲み取りつつ、その後の生活や学習を見据えた視点からのアドバイスを行い、そこでの必要なスキル取得への支援も実施していく。		
地域支援・地域連携	土曜および長期休暇等においてはイベントの一環として積極的に社会資源を活用していくことで、地域社会への参加・交流を図る。			職員の質の向上		日々の業務前・業務後による打ち合わせにて、支援の方法等について相談やアドバイスを行う。職員研修を毎月開催することにより、療育そのものや療育環境(安全・衛生)についても知識や技能を向上させていく。		
主な行事等	(平日)学習、ボードゲーム、ロジカルシンキング、パソコン練習(タイピング練習)、卓球、避難訓練、交通安全教育、防災教育 (学校休業日)調理実習、おやつ作り、木工製作、ボウリング、動物園、水族館、博物館、北大祭、公園(外遊び)、パークゴルフ、果物狩り、畑、バーベキュー、登山、釣り、川遊び、海遊び、小樽散策、大通り散策(公共交通機関)、雪遊び、大掃除							

本人支援① 学習

生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・学習中の会話から、生活リズムや習慣を把握し、適切なアドバイスをすることで生活習慣の改善を図る。 ・学校の宿題について、提出状況や進捗状況を聞き取りながらアドバイスし、家庭学習に意識を向けられるようにする。
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時の姿勢について、本人の集中の仕方や運動機能なども考慮しつつ、正しい姿勢を意識してもらう。 ・学習に使用する道具の扱い方(持ち方、指先の力加減)を練習し、適切に扱えるようにする。 ・周辺環境(机の上、周囲の物)や教材(文字の大きさ、解答のスペースなど)を本人の特性に合わせて調整し取り組みやすい環境を作る。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの児童に合わせた内容を設定し、安定した学習習慣の中で「できた」を積み重ねていき、自己肯定感を高める。 ・間違えた問題や苦手な分野に対して、児童の特性に合わせた配慮を行いながら学習を進めていく。
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・言語分野を扱う際には、実際の会話や日常の場面に置き換えることで分かりやすいイメージを持ってもらい、語彙力の増強を図る。 ・問題を解く中で「なぜ?」「どうして?」を言語化する場面をこちらが設け、その中で自分の考えを伝えてもらい言語の受容や表出する練習を行う。 ・小集団での職員と子どもとの相互作用を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の学習に迷惑をかけないことや、離席する際には許可をとることなどを意識してもらい、社会性(マナー)を身に付ける。

本人支援② ボードゲーム

生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの長さを調整したり、後片付けを子ども同士で協力して行うなどにより、時間を守ることや時間感覚を養う。
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・カードやブロック、特殊な形状の駒を扱うことにより指先のトレーニングを行う。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・「負けること」の経験を積み、失敗や間違い、悔しさの受け止め方、発散の仕方を身に付ける。 ・説明書や口頭説明でルールを理解し、その中で自分の状況(有利・不利)を把握して、適切な戦略を立てて行動することができるようにする。 ・様々な種類のボードゲームを用意しておき、年齢や能力に差があっても楽しめる環境を整える。
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びたい」ということを職員や子ども同士で伝えることで、「自分のやりたいこと」を表明、発信する練習を行う。 ・ゲームにおける、自分なりのコツやルールの解釈を伝え合うことで、説明する力を伸ばす。 ・相手の発言を聞いたり、表情や行動を読み取ったりなどの「言語・非言語コミュニケーション」をゲームの中で身に付ける。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの中で楽しむことを学ぶ。ルール変更は参加者の合意のもと変更することで、協調性を身に付ける。 ・自分の「勝ち・負け」の気持ちは、相手にとっても同様であることを認識してもらい、嬉しい時や悲しい時のコミュニケーションの仕方を学ぶ。 ・アドバイスやアドバンテージ、ハンデを与えたりすることで、相手と一緒に楽しむ姿勢を養う。 ・公共の物(カードや駒など)を壊さないように扱ってもらい、物を大切にできる精神を養う。

本人支援③ ロジカルシンキング(論理的思考クイズ)

生活・健康	なし
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解く過程で、模型や道具を使ったり、仮説を薄く書き込んだり、消しゴムで繰り返し消したりすることで指先のトレーニングを行う。 ・問題を何度も見返したり、図や写真を見比べたりすることで、眼球運動のトレーニングを行う。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・数学(算数)や国語などの教科学習においても求められる、「数学的思考」や「論理的思考」、「文章読み取り能力」をパズルやクイズという取り組みやすいコンテンツによってトレーニングしていく。 ・「じっくり物事に向き合い考える」という時間を作り、「考えること」の練習を行う。
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・「分からない」という抽象的な疑問を、言語として具体的に職員に伝えたり、子ども同士で相談することにより、言語を表出する練習を行う。 ・文章を理解する上で「文字」だけではなく、図や具体的な物を使って考えることで想像力を養う。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が問題に解答したあとに、他の人にヒントを与えたり、答えを大声で言わないように我慢したりなど、相手のことを考えた(相手の立場に立った)言動ができるようにする。

本人支援④ パソコン練習

生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の疑問や調べたいことをパソコンを使って自分で解決できるように、基本的な操作方法を身に付ける。
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・練習プログラムを段階的に設定し、継続して取り組むことで次の段階へ進める仕組みとすることで児童の意欲を引き出し、安定したキーボード操作の練習ができる環境を作る。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の記録を打ち込み、グラフにすることによって、努力や成果を可視化し自己肯定感を高める。 ・学習指導要領にも含まれている「プログラミング的思考」を、簡単なプログラミングゲームソフトを使って身に付ける。
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボード入力においては「ローマ字入力」が基本となるので、ローマ字表を使うなどしながらローマ字への理解を深め、身に付けていく。 ・「漢字クイズ」のソフトを導入することで、遊びながら語彙力の増強を図る。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない問題、自分では解決できない問題に遭遇した時に、周囲に助けを求めることができるように練習する。 ・スコアを競いあったり、1つの問題を複数人で考えたりすることで楽しさを共有し、他人とのつながりに喜びを感じてもらおう(共同体感覚を持ってもらう)。

本人支援⑤ 調理実習(おやつ作り含む)

生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な料理を扱い、それらを自分たちの手で調理を行うことで食への興味関心を育み、食べたことのないものにも触れる機会を作る。 ・一般的な調理器具の扱い方や調理方法を学び、食品を扱う上での衛生観念を養う。
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・調理器具の使い方を写真や図、動画などで示したり、補助具などを用いることで練習し、適切に扱えるようにする。 ・自分たちの手で調理することで、楽しい記憶とともに味覚や嗅覚に良い刺激を与える。 ・ひき肉や小麦粉の生地など、様々な感触がするものを扱うことで刺激に慣れてもらう。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的なレシピの表記、言葉遣いに準じた作業書を作成・提示し、それを読み取りながら道具や材料を使い、表記通りに手順が遂行できるようにする。 ・自分たちの手で調理を行うことで苦手なものへの心理的ハードルを下げて、挑戦する機会を設ける。
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭や作業書からの指示にしたがって、正しく作業できるようにする。 ・複数人で作業を行う際に、お互いに声を掛けたり、役割分担するなど、コミュニケーションを取りながら作業を進められるようにする。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・率先して作業を引き受けたり、相手に提案したりするなど、集団内での個人の動き方や協力の仕方を学んでもらう。 ・料理が完成したときの達成感を全体で共有することで一体感を感じてもらい、集団行動の大切さを学んでもらう。

本人支援⑥ 木工製作

生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものを手作りすることによって、モノへの興味関心を育み、創作意欲を醸成する。 ・「既製品を買う」という物質主義的な充足感ではなく、「自分で作ったものを使う」という充実感を楽しめるようになる。 ・モノづくりの実践の中で、作業に合った衣服の調整、道具の準備・後片付けの方法を学ぶ。
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・カッターや彫刻刀などの扱い方(持ち方、指先の力加減)を練習し、適切に扱えるようにする。 ・各種電動工具などの使用を通して、「材料を押さえながら作業する」「適切な姿勢で作業する」など、体の使い方を学ぶ。 ・作業が難しい場合には補助具などを活用することで難しさを緩和できることを学ぶ。 ・作業を通して、粗い面が滑らかになるという感覚、真っすぐや直角などの感覚を体感する。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・「口頭での指示を聞き、それを理解し、実践する」これらを繰り返すことで、指示された手順にしたがって正しく作業を行えるようにする。 ・自分がデザインした形の表現方法や、そのために必要な道具、手順を一緒に考えて準備する。 ・作業の危険度を理解し、危険を予知した上で自分が取るべき行動を考えられるようにする。 ・作業が上手くいかなかった際に、工夫ややり直すことで「失敗」で終わらないようにする。
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・複数人で作業を行う際に、お互いに声を掛けたり、役割分担するなど、コミュニケーションを取りながら作業を進められるようにする。 ・その際に、相手を責めるような言い回しではなく、言い方を考えて相手を作業に促せるような声掛けを意識できるようにする。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・作業過程や完成品に関して、褒められて嬉しいという経験から、褒めると相手が喜ぶという経験に繋げて、お互いに高め合える関係を作る。

本人支援⑦ 遊び(屋内、屋外)

生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場所に行き、活動することによって余暇の過ごし方の選択肢を広げてもらいながら、体力の向上や感受性を豊かにしていく。 ・活動の内容や天候に合わせた服装や持ち物を自分で考えて選べるようにする。
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・平衡感覚や体の動かし方、微細な力加減などを活動の中で実践し学んでもらう。 ・登山や畑作業など、自然と触れ合う機会を積極的に設定し、五感で自然を感じてもらいながら感性を磨く。
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識のあることや初めて体験することでも、仲間とともに一体となって挑戦していくことで乗り越えたり、楽しさを実感してもらおう。 ・スポーツなどのスコアのある活動においては、スコアにより数の概念形成を促しながらも、スコア以外での楽しさにも気が付いてもらう。
言語 コミュニケーション	自分のやりたいことや考えを伝えたり、相手の様子や意図を汲み取ったりすることができるようにする。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場での活動を設定し、場所や場面、対人関係に応じた振る舞いを身に付ける。 ・協力が必要な場面において、周囲の人とともに作業や活動を行うことができるようにする。

本人支援⑧ その他(生活動作など)

生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時の手洗いや飲食、ティッシュの使い方など衛生に関わる意識を身に付ける。 ・スケジュールを掲示することで見通しを持って活動できるようにする。 ・自身の荷物や上着、持ち物について声掛けを行い、整理整頓ができるようにしていく。 ・お金や公共施設の使い方について学ぶ。
運動・感覚	なし
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を通して、他人(職員、他児)に関心を持ち、共に努力している仲間であると感じられるようになる。 ・その日に学習した内容をみんなの前で発表することで、自分がその日に頑張ったことを確認し、自信に変えていく。
言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや自己紹介の場面を通して、他人との心地よいコミュニケーションの始め方を身に付ける。 ・その日の出来事や自分の興味関心、意志などを自発的に発信できるように、職員が聞く姿勢を持つことはもちろんのこと、他児へも「聞く姿勢」を意識して身に付けていく。
人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の発言に対して、競う気持ちや否定的な反応を返すのではなく、まずは受け止めて認められるようになる。 ・他人(職員や他児)へ関心を持ち、自ら困っている人や初対面の人に対しても思いやりを持った行動、気遣いができるようにする。